

平成28年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	1年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評 価 (3月18日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	(1) 学科の特性を活かした多様な進路選択に役立つ科目を配した教育課程を維持しながら、単位制普通科に向け、適切な教育課程の編成を行う。 (2) 生徒の基礎学力の充実と主体的な課題解決学習の実践に向け組織的な授業改善に取り組む。	(1) 単位制普通科への移行期であることを踏まえ、単位制普通科と総合学科、それぞれの特性を生かした適切な教育課程の編成を行う。 (2) 基礎学力や思考力・判断力・表現力等の向上を目指した、授業改善の取組をより一層進める。	(1) 単位制普通科と総合学科の特性を生かしなが、生徒一人ひとりの学習ニーズを踏まえ、進路実現に向けた適切な教育課程の編成を行う。 (2) ①授業の到達目標の明確化と提示、丁寧な説明と言語活動の充実を目指した授業を全教員が展開する。 ②アクティブラーニングの視点を取り入れた授業改善の取組を組織的に推進する。	(1) 単位制普通科と総合学科の特性を生かして、29年度の教育課程の編成ができたか。 (2) ①生徒による授業評価アンケート結果を授業改善に生かすことができたか。 ②校内研究会・研究協議を充実させることができたか。	(1) 学科の特性を生かして、平成29年度の教育課程を編成できた。特に普通科において、総合学科で開講している特色ある科目を配置するなど工夫をすることができた。 (2) 「生徒主体の授業の取組」をテーマに授業改善に取り組んだ。また、教科の枠を越えた校内研究会・研究協議を実施することができた。次年度に向けて、年間指導計画及び指導と評価の計画を整えた。	(1) 平成30年度の教育課程編成に向けて、総合学科の生徒の希望を最大限生かすための工夫をする。 (2) 平成29年度に90分授業から50分授業に変更するので、50分授業における生徒主体の授業のあり方を研究する機会を多く設定する。また、アクティブラーニングに関する情報収集・分析・周知を進めていく。	(1) 新校に向けて教育課程の編成など評価できる。 (2) 来年度からは、普通科と総合科が混在し、50分授業へと変更になるが、引き続き授業改善を研究する必要がある。	(1) 新校の教育課程の編成は実施できたが、生徒の進路実現のための工夫・検討が必要である。 (2) 教科の枠を越えた校内研究や協議を行ったが、アクティブラーニングを取り入れた50分授業に課題を持つ教員が多い。	(1) 進路実現に向けた適切な教育課程の編成に取り組む。 (2) アクティブラーニングの視点を取り入れた授業改善に向けて教科会や研究会の実施に取り組む。
2 生徒指導 ・支援	(1) 規範意識の向上と主体的に行動できる力を育てる。 (2) 個の特性を生かしながら他者を尊重する意識を育てるとともに、自律的な生活への支援体制を整備する。 (3) 生徒の主体性や他者を尊重する態度を涵養する。	(1) 規範意識・マナー向上を図る指導を日常的に行う。 (2) 生徒の心身の状況を適切に把握して、一人ひとりに応じた支援を行う。 (3) クラスや年次の活動、生徒会行事、部活動を通して、主体性、規範意識、思いやりや協働の態度、自己肯定感、他者を尊重する態度を涵養する。	(1) 服装・頭髪指導等を全教員が連携して組織的に行う。 (2) 生徒の情報を共有化し、ケース会議等を適宜開催して組織的に支援を行う。 (3) 部活動説明会や体験活動など生徒の主体性を育む場を設定する。また、部活動を活性化させる。	(1) 生徒の規範意識が向上したか。 (2) ケース会議等を適切に開催できたか。 (3) 部活動加入率について10ポイント程度向上したか。また、生徒の満足度が高まったか。(アンケート) ②チームワークや仲間意識が芽生え達成感のある活動ができたか。(アンケート)	(1) 正門での服装・頭髪の一斉指導を2度行った。再登校指導も粘り強く行うことにより生徒に規範意識が高めることができた。 (2) 年間10回以上のケース会議を開催した。また、必要に応じて外部機関やSSWと連携して生徒の支援を行うことができた。 (3) 部活動加入率は1年次生男子75%、女子85%となり、高い入部率となった。 ②学校行事を通して、クラスや学校への帰属意識を高めることができた。	(1) 普通科の生徒の入学に合わせて、校則の見直しを図る。 (2) 教育相談コーディネーターを各年次に配置することが望ましい。 (3) 退部する生徒が出ることを防ぐ方策が必要である。入部後の部活動への定着度をさらに上げる。 ②生徒の達成感や自己肯定感を高めるために、より生徒主体の行事となるように、運営に工夫をして改善する。	(1) 髪や服装について、落ち着いた印象であり日々の指導を評価できる。下校途中の様子などから、マナー等については、今後も継続的に指導を重ねてほしい。 (3) 教員の時間外等への負担を配慮しながら、部活動の活性化を今後も継続する必要がある。	(1) 立ち番による服装・頭髪一斉指導等を全教員で連携し組織的に実施したが、規範意識の向上を日常的に実施する必要がある。 (2) ケース会議では生徒の情報を共有化し迅速な対応ができた。スクールカウンセラーとの連携が思うようにできなかったケースがあった。 (3) 部活動の加入率は向上したが、部活動全体を活性化するための改善が必要がある。	(1) 服装・頭髪指導や地域巡回など指導方法を検討し、ルールとマナーに関する規範意識の更なる向上に取り組む。 (2) 教育相談コーディネーターを各年次に配置し生徒の情報共有を密に図る必要がある。 (3) 部活動説明会や体験活動など生徒の主体性を育む取組を推進する。
3 進路指導 ・支援	(1) 進路への自覚を深め、コミュニケーション力など社会で必要とされる力を身につけさせ	(1) 進路への自覚を深め、コミュニケーション力など社会で必要とされる力を身につけさせながら将来の職業を	(1) MIRAIでの学び、履修指導、総合選択科目での学習と、進路実現を一体化させた支援を科目担当・年次担当等が情報を共有化し連携して行う。	(1) 職場見学・職業人インタビューが充実した体験となったか。(アンケート) また、課題研究について幅広	(1) 社会人講話について13名の職業人を招聘して実施した。職業人インタビューについては、48施設にグループ単位で訪問した。イ	(1) 自己の在り方生き方についての考えを深めること、自己肯定感を高めることを目的として、自己啓発活動を	(1) 職場見学・職業人インタビューによる発表会を実施したが、生徒の進路実現に	(1) 生徒の意欲を高める職場見学・職業人インタビューを計画する。	

		ながら将来の職業を展望させ、その実現を支援する。	展望させ、その実現を支援する。		いテーマ設定して研究することができたか。	インタビューの本番のみならず事前準備や練習を通しての学びがあり、報告書を作成してまとめを行った。年度末には発表会を実施して、成果を共有した。課題研究のテーマ設定については、これまでより広い範囲で設定することができ、研究の幅が広がった。	次年度入学生の総合的な学習の時間に取り入れる。		繋がるよう取り組ませることが必要である。	
		(2) 校内外の教育資源や体験活動を活用し、進路選択や将来像について考える教育を推進する。	(2) 校内外の教育資源や体験活動を活用し、進路選択や将来像について考える教育を推進する。	(2) 一人ひとりの能力について客観的な状況、情報を把握し、計画的な進路支援を行う。校外の体験的な学習活動への参加を促し、社会と関わりながら学び、自己の進路選択や社会における将来像について考えていく態度を育む。	(2) 仕事のまなび場、総合学科夏期連携講座、インターンシップについて参加者数が昨年度を上回ったか。	(2) 仕事のまなび場の参加は、1年次生 62名、2年次生 13名が参加した。2年次の1名が、「仕事のまなび場実施報告会」で発表を行い、その内容が高く評価された。インターンシップについては、14名が参加した。	(2) 仕事のまなび場は昨年度比 15名減、インターンシップについては10名増でほぼ横ばいである。次年度は生徒への情報提供の仕方をさらに工夫する。普通科入学生では大学進学を目指す生徒を増加させるために、進路支援の内容並びに学習指導の在り方を根本的に見直す必要がある。	(2) 仕事のまなび場やインターンシップへの参加は評価できる。次年度以降も指導を継続してほしい。	(2) 仕事のまなび場等については、参加者がやや下回ったがインターンシップはやや上回った。情報提供の仕方をさらに工夫する必要がある。普通科入学生への進路指導を強化する必要がある。	(2) 仕事のまなび場等への案内など情報提供の仕方を検討するとともに、発表の場を有効に活用する必要がある。早期から大学進学等への進路意識の改革を図る指導体制に取り組む。
4	地域等との協働	地域の教育力を活用した教育活動を維持・推進する。本校の教育活動を積極的に発信し、また地域へ貢献する活動を行う。	地域の教育力を活用した教育活動を維持・推進する。本校の教育活動を積極的に発信する。総合学科教育研究会校外連携部会担当校として運営を通し、総合学科全体の教育活動に寄与する。	・PTA 活動を中心とした協働的取り組みを通じた教育活動を推進する。 ・ホームページや学校説明会で本校および来年度からの単位制普通科での教育活動について発信する。 ・校外連携部会担当校として総合学科各校との連携・連絡をとっていく。	・生徒活動支援と連携して環境整備等の活動を実施したか。 ・ホームページの更新を計画的に行うことができたか。 ・総合学科各校との連携・取組を本校の教育活動に生かすことができたか。	・PTA 活動は、計画どおり実施した。 ・段階的に進化した学校改革に対応しながらホームページ及び学校説明会で単位制普通科の教育活動について発信した。学校説明会における生徒スタッフによる説明は効果的であった。 ・総合学科教育研究会校外連携部会担当校として丁寧な連絡・調整を図り、各校の生徒の連携講座への参加・活動に対し円滑な運営に寄与した。	・デコデコプロジェクト参加枠の増大などを進め、より生徒との交流を促進していく。 ・単位制普通科の教育内容や生徒の活動の様子を随時発信していく必要がある。そのために HP 編集用の PC、学校案内作成用のソフト、複数のスタッフ体制、校内の情報ソースをアップにつなげるシステムが必要である。 ・学校説明会では、生徒主体の授業や活動の発表を組み込むことで具体的で親近感のわく内容にしていく。	いきいきマップ、緑絵カレールのボランティア活動は大いに評価できる。次年度以降も指導者育成ならびに生徒の積極的な参加を継続してほしい。	PTA と連携したデコデコプロジェクトなど環境美化活動への生徒参加が多かった。校内や校外活動など生徒の主体的な取組を継続し、より活性化する必要がある。	自己啓発活動を有効に活用し、PTA 活動や生徒活動支援と連携したボランティア活動等の教育活動の推進を図る。
5	学校管理 学校運営	(1) 安全・安心な学校環境整備を進め、生徒の防災意識を高める。 (2) 学習環境の整備を進める。 (3) 業務の整理と再編成を行う。 (4) 事故・不祥事防止を徹底し、信頼される学校づくりに努める。	(1) 安全・安心な学校環境整備を進め、生徒の防災意識を高める。また、信頼される学校づくりを継続する。 (2) 学習環境の整備を進める。 (3) 業務の整理と再編成を進める。 (4) 事故・不祥事防止を徹底し、信頼される学校づくりに努める。	(1) 災害時の安全対策としての防災訓練を通じて、防災意識の向上を図る。 (2) 学習環境の向上について調査、対応策の検討をする。 (3) 業務を整理し、再編成について検討する。 (4) ①不祥事防止研修を計画的に実施する。②私費会計基準に則して適切に会計処理を行う。	(1) 充実した防災教育を実施できたか。 (2) 単位制普通科開校に向けて、整備を進行したか。 (3) 29 年度の校内体制を構築できたか。 (4) ①不祥事防止研修を計画的に実施したか。②私費会計基準に即して、会計処理を行うことができたか。	(1) 学校防災活動マニュアルを作成した。DIGや東日本大震災を風化させない取組を含め、充実した防災活動を実施した。 (2) 学習環境の整備として、机・椅子を更新できた。 (3) インクルーシブを生活、手話を生徒活動、学校評議員会を学校環境の業務に位置付けて、今後の学校運営の活性化に備えた。 (4) 私費監査での指摘について即時に訂正し指摘事項を周知した。	(1) 防災用品や防災食品の保管について、引き続き改善に向けて検討する。また、内容の充実を図る。 (2) 普通科が全年次そろそろ 31 年度までを見越して、計画的に教室整備を行っていく。 (3) 業務について総括教諭は進行・管理を徹底する役目を担い学校全体を見通して運営に携わるよう企画会議の在り方を改善する。 (4) 私費会計基準の周知徹底が必要である。	(1) 横浜市は小中学校が防災の拠点になっている。また泉区は防災訓練が盛んである。教員や生徒が地域の訓練に参加してほしい。外部資源を用いての防災講話を取り入れるのも有効である。 (2) 机・椅子の更新はできたが学習スペースや自習室の整備が必要である。 (3) 校内業務体制は整備できたが、業務の整理と再編が必要である。 (4) 私費会計基準に則して会計処理を実施できた。より迅速な会計処理に取り組む必要がある。	(1) DIG など防災教育は実施できたが、地域と連携した防災訓練への参加を増やしたい。 (2) 机・椅子の更新はできたが学習スペースや自習室の整備が必要である。 (3) 校内業務体制は整備できたが、業務の整理と再編が必要である。 (4) 私費会計基準に則して会計処理を実施できた。より迅速な会計処理に取り組む必要がある。	(1) 小学校で行われる地域の防災訓練に生徒と教員を派遣することについて検討する。 (2) 自習室などの学習スペースの確保を検討する必要がある。 (3) 業務内容の整理とグループ業務の再編に取り組む。 (4) 私費会計基準周知のための研修会の実施に取り組む。